

記入例

症例報告用紙

(やまぐち糖尿病療養指導士資格更新用)

申請者氏名 〇〇〇〇 (職種) 看護師

医療施設名 ▽▽▽▽病院		患者氏名 (イニシャル) M・Y 男・女 (年齢 72)	
指導期間	21年 3月 ~ 21年 6月	身長 145cm, 体重 57kg, BMI 27	
糖尿病の診断を受けた年齢 64歳 病型: 1型・ <u>2型</u> ・妊娠・その他の特定の型		治療法 食事療法 <u>有</u> ・無 (1400 kcal) 運動療法 <u>有</u> ・無 薬物療法 <u>有</u> ・無 有の場合 (血糖降下薬・ <u>インスリン</u>)	
合併症	網膜症 <u>有</u> ・無・不明 神経障害 <u>有</u> ・無・不明 腎症 (有・ <u>無</u>) 不明 その他 ()	心筋梗塞・狭心症 (有・ <u>無</u> ・不明) 脳梗塞 (脳卒中) <u>有</u> ・無・不明 閉塞性動脈硬化症 (有・ <u>無</u> ・不明)	
指導内容 (具体的に記入して下さい)			
<p>①指導上の問題点 ③主治医を含めた、多職種連携 ②問題点への対応 ④指導による患者さんの変化</p> <p>①) カロリー制限はわかっているが間食や外食が多い 2) 糖尿病に対する知識不足 3) 右眼の急激な視力低下に伴う不安 4) 糖尿病神経障害に対してフットケアの必要性が理解できていない</p> <p>②) 1) 食生活の振り返りや摂取カロリー量を見直してもらうよう促し、今までの食生活をどのように改善したらよいかをいっしょに考えた。また、外食が多いため「外食ハンドブック」の紹介も行った。 2) 糖尿病のしおりを渡し、糖尿病教室の参加を促した。しおりの内容の他、わからないこと、疑問点があればすぐ対応することを伝えた。 3) 心配事がある時は遠慮せずに相談してほしいと声をかけた。なるべく時間を作り、不安の解消に努めた。内科と同様、眼科の定期受診の必要性について説明した。 4) 血糖コントロールが不良になると神経障害も悪化し、感染しやすくなること。(特に、拇指に腫瘍ができていたため注意を要する) そのため、毎日足の観察が必要であることを説明した。</p> <p>③) 1) 食事バランス・外食のとり方について栄養士に確認し、指導した。 2) 正しい知識を会得してもらうため、定期的に行われている糖尿病教室で多職種による指導を受けるようすすめた。 3) 眼科と連携をとり、情報交換を行いながらの対応に努めた。 4) 糖尿病神経障害について主治医より説明され、具体的にフットケアを行いながら情報提供していった。</p> <p>④) 1) 今までの食生活の問題点に気づき、ドカ食いや多くの食事を作ることはやめ、食事療法に取り組む意欲がみられるようになった。 2) 糖尿病のしおりも繰り返し読み、知識の習得に意欲的な姿勢がみられた。また、運動療法についても自分なりに計画を立て歩行していることを話される。 3) 「眼科はしばらく受診してなかった。やっぱり診てもらわんといけん」という言動が聞かれ、眼と血糖コントロールの関連についても強い意識がもてた。 4) 「足を観るという意味がわかった。これからは毎日観察する」と言われ、フットケアの大切さが理解できた。</p>			